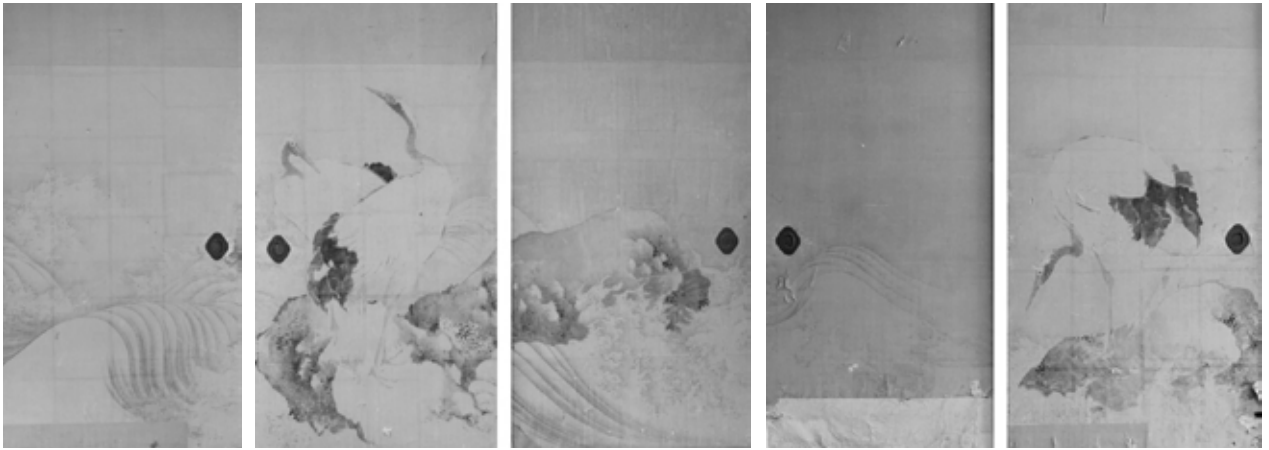


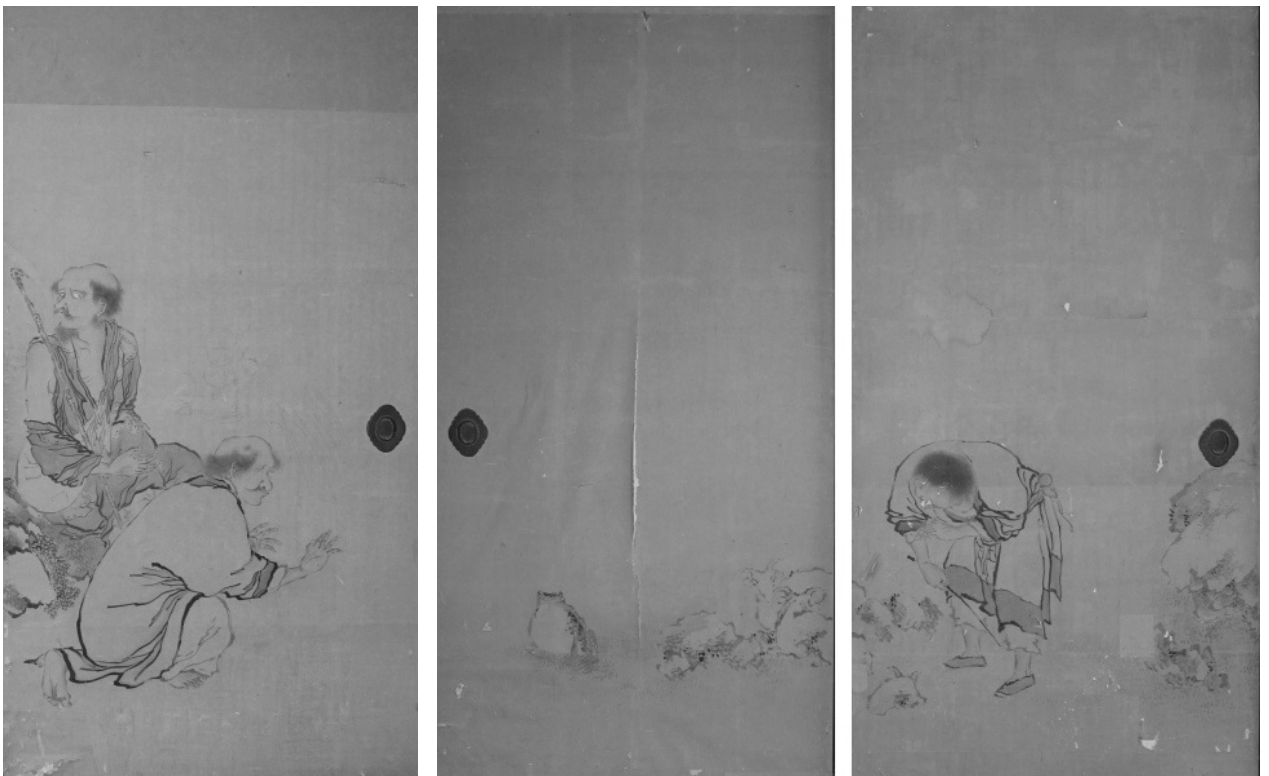


群鶴図（上間二之間 西面）

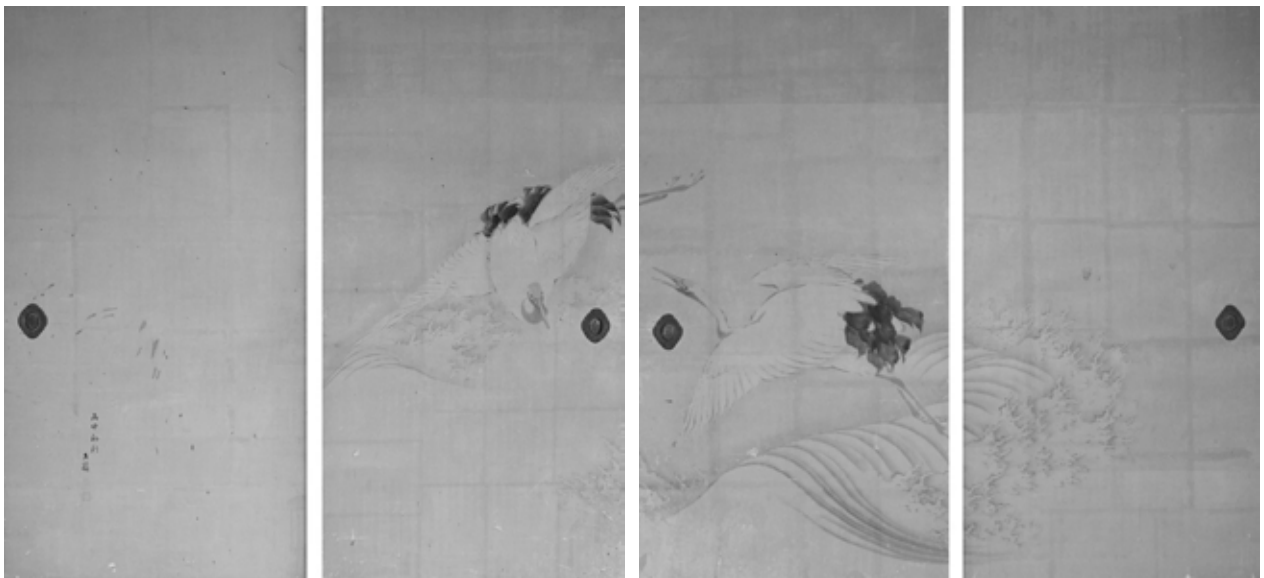


群鶴図（下間二之間 南面）

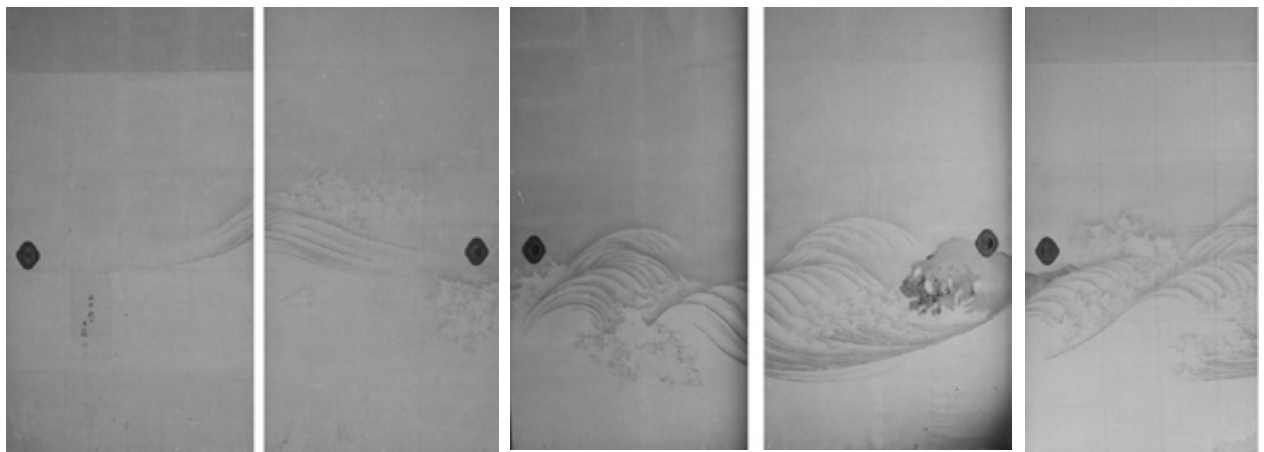
群鶴図（下間二之間 西面）



群仙図（下間一之間 東面）



群鶴図（上間二之間 南面）



群鶴図（下間二之間 東面）



群仙図（下間一之間 北面）

もくぞうしんぞう
木造神像

女神坐像 七軀

一六軀（彫刻・指定）

保存状態
髻、後補。

が交互に配され、はたそで 鰭袖内側に白色地に黒色で総を描く。

内一軀の像底に康治二年二月十一日、願主頼親、請造并開眼
延尊、木造睿与、静仁等の銘がある

男神像 七軀

僧形神像 二軀

附 神像形 二軀

京都市西京区嵐山宮町三

宗教法人松尾大社

一 女神像 その一 櫛谷社・宗像社旧安置

法 量 像高 四二・八センチメートル

形 状 頭髮を前・両側方に十一条に束ねて結び上げ、後方は七条を束ね肩辺まで垂らしたあとゆるく結び上げ、頂で髻を結う。

內衣一枚を左衽にさじん着し、がいと襦衣を着し、胸前で拱手して坐す。

品質構造 ケヤキか、一材製、内うちぐ削りなし。木心を右腰脇辺に籠める。

木心から最も遠い彫刻面までの長さ（木心からの最大径）

二六・一センチ。髻は別材は短はぎ。表面全体に灰墨漆がかかり、

下衣の襟は、白地に黄褐色と白色の二重円文（全形・半截形）



女神像 その1



女神像 その2

一 女神像 その二 月読社旧安置

法 量 像高 五五・八センチメートル

形 状 頭髮を前・両側方に八条を束ねて結び上げ、後方に六条を束ね肩辺までいったん垂らしたあとゆるく結び上げ、頂で髻を結う。內衣二枚（下層は大袖衣）を右衽に着す。その上に

襦衣を着し、腰帶をしめ坐す。両手先を差し出して仰ぐ。左手掌は持物（亡失）を執ったと見られる。

クスか、一材製、内削りなし。頭体根幹部（両手上膊部、両

腰脇部を含む）を一材から彫出する。髻、両肩に垂れる毛束

先端、鰭袖外側、大袖衣の袖口差入れとその先端を短くぎ、両

手先を袖口に差入れて短くぎ。両足部に横一材、大袖衣裾先に

一材を短くぎ。両肩前に釘打込みあり。

黒漆、白色下地、彩色。肉身部を白色に、頭髮を黒色に塗り、

頭髮に釵子さいしを白色であらわす（いずれも補彩）。內衣上層と

■襦衣は、緑地、切金五ツ菱入り二重斜格子文に、褐色の丸

文散らし（赤色八弁花四個を配する）。襟は連珠と列弁刻出、

前者に漆箔、後者の内区に赤・薄い褐色・白の縹うんげん、外区に

緑・薄い緑・白の縹うんげんと別の縹うんげん（不明）を交互に配する。

鰭袖の総は白地に赤の線、端に黄色にぼかし。內衣上層の襟

および裾は黄褐色・白・黄褐色の三段。內衣下層（大袖衣）

は赤色地、切金四ツ菱入り二重斜格子文に丸文散らし（緑地

に花五個を配する）。

記録 (像底墨書)

秦種愷拜

寛保元年辛酉秋七月日

重奉潤色尊容及両手也

保存状態 髻・右手第三・四指、後補。彩色後補。持物亡失。

一 女神像 その三 櫟谷社・宗像社旧安置

法 量 像高 三三・六センチメートル

形状 頭髮を束ねて結い上げる。內衣二枚を右衽に着す。■襦衣(襟に紐・連珠・紐・列弁刻出)を着し、領巾^{ひれ}を掛け、胸前で拱手して坐す。

品質構造 カヤか、一材製、内割りなし。木心を中央やや左寄りに籠め、木心からの最大径一五・八センチ。髻用の孔二個。下衣の襟は黄色、■襦衣に花文を散らす。

品質構造

記 録 (像底墨書) 櫟谷 康治二季二月十一日(己/巳)

始之奉造 願主本社神主頼親

請造并開眼備後講師延尊

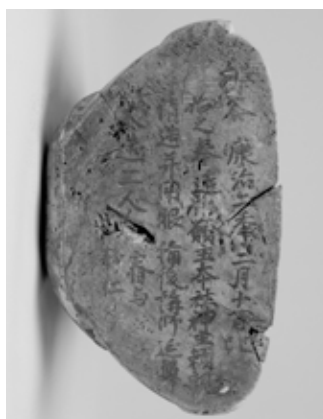
木造二人 睿与

静仁

保存状態 髻、亡失。



女神像 その3



女神像 その3 像底

一 女神像 その四 三宮社旧安置

法 量 像高 二九・八センチメートル

形状 頭髮を束ねて結い上げ、內衣一枚、■襦衣(襟は無文)を着し、領巾を掛け、胸前で拱手して坐す。

品質構造 クスカ、一材製、内割りなし。木心を中央やや左寄りに籠め、木心からの最大径一三・六センチ。彩色不明。

記 録 (像底墨書) (始)

「 □□奉

(造) (神) 願主本社 □ 頼親

(後講) (延) □□□□尊

(睿) □与

□□

□□



女神像 その4

保存状態 面部、像底周辺、朽損が著しい。

一 女神像 その五 金比羅社旧安置

法 量 像高 二九・四センチメートル

形状 頭髮を束ねて結い上げ、內衣・■襦衣(襟は無文)を着し、領巾を掛けて坐す。

品質構造 ケヤキか、一材製、内割りなし。木心は像背から少し外れるところを通り、推定木心からの最大径二二・〇センチ。彩色不明。

保存状態

頭部、首より下部、朽損が著しい。

一 女神像 その六

法 量 像高 三五・二センチメートル

形 状 ■襦衣（襟は無文）を着し、領巾を掛けて坐す。內衣は彩色であらわしたか。

品質構造 クスカ、一材製、内割りなし。木心を中央に籠める。木心からの最大径一二・五センチ。

保存状態 体部は損傷が多い。頭部はほかの像からの転用。

一 女神像 その七

法 量 像高 三二・二センチメートル

形 状 頭髮を左右に分けて背に垂らし、衣（単か）を着し坐す。腹部に腹帯（張袴か）。左手は腰前で掌を内側にし、右手は腹前で掌を内側にし、指をそろえる。

品質構造 ケヤキか、一材製、内割りなし。木心は像背から少し外れたところを通る。推定木心からの最大径一五・七センチ。黒漆塗り、白色（下地）。彩色不明。

保存状態 下半身が欠失する。



女神像 その5



女神像 その6

一 男神像 その一 衣手社旧安置

法 量 像高 四二・八センチメートル

形 状 巾子冠をかぶり、纓を背に垂らす。口上と顎にひげを伸ばす。袍を着し、拱手して坐す。巾子の根本に左右に通る丸孔（簪ほう亡失）、少し脇に縦丸孔、背左腰脇に丸孔がある。

品質構造 広葉樹か、一材製、内割りなし。木心は両足先から少し外れるところを通る（推定木心からの最大径一四・九センチ）。肉

身部肌色。頭髮墨（耳うしろから後頭部に残る）。目は白目

白色、黒目墨、目頭・目尻赤、両まぶた墨線、唇赤、ひげ墨、袍赤、袴緑青に墨で格子文・平行線文。

保存状態 持物、簪、亡失。像底周辺、朽損が著しい。

一 男神像 その二

法 量 像高 三八・四センチメートル

形 状 巾子冠をかぶり、纓を背に垂らす。口上と顎にひげを伸ばす。袍を着し、拱手して坐す。両足部欠失（朽損）。巾子の根本

に左右に通る丸孔（簪亡失）、少し脇に縦丸孔、背左腰脇に丸孔がある。

品質構造 クスカ、一材製、内割りなし。木心は像背左方を通る（推定



女神像 その7



男神像 その1